

文部科学省 委託事業

平成28年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」

「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」  
(略称：GPL 講座)

## 業 務 成 果 報 告 書

平成29年5月

報告者／事業者：国立大学法人名古屋大学大学院

工学研究科航空宇宙工学専攻

本報告書は、文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」委託費による委託業務として、国立大学法人名古屋大学が実施した平成28年度「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

## 目次

1. 要旨
2. 実施概要
  - 2-1 実施内容
  - 2-2 実施日程
  - 2-3 実施体制
3. 実施結果
  - 3-1 GPL 講座
  - 3-2 GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析
  - 3-3 講演会企画
  - 3-4 講座改善計画
  - 3-5 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等）
  - 3-6 事業 PR 講演会開催（航空機開発とその課題）
4. 纏め

### 添付資料

参考資料 アンケート集計結果

## 1. 要旨

航空機産業が終結する中部地域は愛知・岐阜・三重・長野・静岡を国際戦略総合特区「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定され活動を続けている。この特区の雇用者数は平成 30 年までに 25,000 人を目標としている。この地域における喫緊の課題は、これらの雇用者を指揮・指導するグローバルな対応能力や航空機の技術集約部品を取り扱う高度なプログラム管理能力を有する技術リーダーの育成である。この課題解決のため、時節によって刻々変化する企業要請に即した課題を反映可能な高度な大学院教育プログラム構築が求められている。この事業は、本校で実施されてきた「航空機開発プロジェクトリーダー養成講座」が適切な課題提供と企業の要請にあった教育が提供されたかを調査・評価し、刻々と変化する航空機開発の課題に沿った講座となるように企画し、平成 27 年度以降の GPL 養成講座に成果を反映させる目的で提案された。本成果報告書は平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までの活動と成果をまとめたものである。

## 2. 実施概要

### 2-1 実施内容

今期の活動は下に示す 5 項目である。

- (1) 開講式準備・開講式  
(同時開催講演準備)
- (2) 講座準備・講座  
(教材準備・印刷・講師事前打合わせ・講座等)
- (3) 修了式準備・修了式
- (4) GPL 講座評価・要請の調査(受講生・企業等)・分析
- (5) 講演会企画
- (6) 講座改善計画
- (7) 講座開講準備(教材・講師手配・講義会場手配等)
- (8) 事業 PR 講演会開催(航空機開発とその課題)

## 2-2 実施日程

今期の活動は下に示す計画に沿って概ね予定通り実施した。

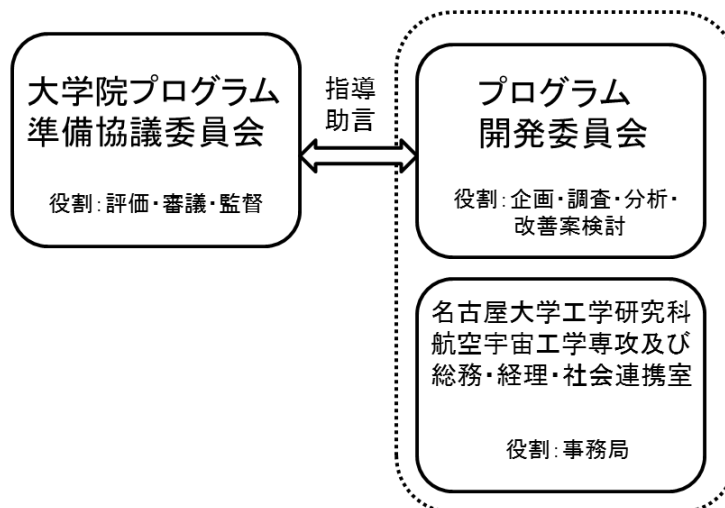
調査の対象となった平成28年度のGPL講座は平成28年5月から9月の間に開催したもの、受講者数は38名。

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開講式準備・開講式 (同時開催講演準備)	開講式案内・講演者調整等											
		開講式 (5月14日)										
講座準備 (教材準備・印刷・講師事前 打合わせ等)	講座準備											
講座		講座実施 (全15回75時間)										
修了式準備・修了式					修了式案内等準備							
						修了式 (9月3日)						
GPL講座評価・養成の調査 (受講生・企業等)・分析							アンケート調査・分析					
講演会企画							講演者と演題の設定・調整					
講座改善計画							講座改善事項整理					
講座開講準備 (教材・講師 手配・講義会場手配等)							カリキュラム	教材・講義会場準備				
事業PR講演会開催 (航空機開発とその課題)									基調講演会実施 (3月4日)			

## 2-3 実施体制

これまで本学で実施してきた航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成(GPL)講座での実施体制を基本として、本事業の業務運営管理、取り扱い業務に当たることとした。以下に体制図を示す。

### GPL講座実施体制



大学院プログラム準備協議委員会は、航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム協議委員会の略称略称で下記に構成メンバーとその役割を記す。

#### 構成員

連携機関（企業・団体・機関等）の名称	構成員の所属・職名	役割	氏名
(1) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学研究科長	プログラム責任者	松尾 清一
(2) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学副研究科長	プログラムコーディネーター	佐宗 章弘
(3) 名古屋大学	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻特任准教授	プログラムマネジメント、学内外調整	林 賢吾
(4) 川崎重工業株式会社	航空宇宙カンパニー技術企画管理部・技術情報課長	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	辻 浩敏
(5) 三菱重工業株式会社	名古屋航空宇宙システム製作所名古屋総務統括部・人事課人材開発チーム主任	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	佐藤 誠
(6) 三菱航空機株式会社	コーポレート本部 総務部・人事グループ主任	カリキュラムの内容に対する専門的な意見、受講生の派遣、講師の派遣	市川 孝敏

#### 役割

大学院プログラム準備協議委員会は、後述の「プログラム開発委員会」が実施する以下の項目について助言、指導および監督を行う。

- (1) 平成 28 年度に実施する「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座（GPL 講座）」「GPL 展開講座」の調査および分析結果を評価し、助言および指導を与えるとともに妥当性を審議する。
- (2) プログラム開発委員会の提案する改善策を評価し、助言および指導を与えるとともに審議する。
- (3) プログラム委員会による「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」実施の際には、適切な講師を選定し派遣するとともに、受講生を募集し派遣する。

(4) 実施会場および設備を提供するとともに、修了要件の設定および修了証の発行を行う。プログラム開発委員会の構成員およびその役割を以下に記す。

構成員

<u>氏名</u>	<u>所属・職名 役割等</u>
佐宗 章弘	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・教授 委員長
笠原 次郎	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・教授 副委員長
林 賢吾	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・特任准教授 カリキュラム企画、 教材開発、学内外調整、授業担当
後藤 圭太	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・助教 カリキュラム企画、授業担当
渡邊 智昭	名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻・助教 カリキュラム企画、授業担当
三橋 光紀	(株)ECC 法人渉外部門 法人事業課 営業 ビジネス英会話分野のカリキュラムの企画

役割 プログラム開発委員会は、以下の項目を実施する。

- (1) プログラム開発委員会は平成 28 年度に実施される「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成講座 (GPL 講座)」「GPL 発展講座」の教材および受講生へのアンケート、および受講生派遣企業へのヒアリングにより、その受講満足度および目標達成度を調査し、改善の可能性を分析する。
- (2) 調査結果について協議の場の評価を受け、改善を推奨された項目について具体的な改善案を検討する。
- (3) 改善案に基づき新たなカリキュラムを企画し、協議の場より承認を得る。
- (4) 承認を得たカリキュラムに基づいて、「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を構築する。
- (5) プログラムの実施スケジュールおよび実施場所などの準備・広報に努める。
- (6) 平成 29 年度に継続して「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」を実施し、目標達成度を評価し検証する。

### 3. 実施結果

#### 3-1 GPL 講座

##### ① カリキュラム

下記カリキュラムによる講座を実施した。毎週土曜日に5時間、全15回75時間の構成。

#### 講義計画 - カリキュラム 全15回

講義時間(基本): 毎回 10:00~12:00/13:00~16:00

講義No.	日付	10:00		10:15		12:00		13:00		16:00			
		■ Preparation						■ Preparation					
第1回	5月14日	■ オリエンテーション				■ 航空機製造産業の現況と解くべき課題				■ Intorduction to Book & Cross Culture Communication			
第2回	5月21日	■ 航空機開発の特質 - ビジネス規模と航空機の特徴						■ Presentation Skills & Exploring Culture					
第3回	5月28日	■ 航空機の認証に関するRegulationsとガイドライン - Regulation、航空機の認証、Certification Process						■ KAS 1: Physical vs Digital Mockups					
第4回	6月4日	■ 品質管理と特殊工程						■ Business MGMT Skills & Exploring Culture					
第5回	6月11日	■ 商品企画と開発の流れ						■ KAS 2: Wing Skin					
第6回	6月18日	■ 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント						■ Meeting Skills & Exploring Culture					
第7回	6月25日	■ 航空機開発手法 - IT活用の実態、Digital Product Lifecycle Management						■ KAS 3: Aluminum vs Composite Materials					
第8回	7月2日	■ 開発手法の傾向 - Lifecycle Product Development						■ Negotiation Skills & Exploring Culture					
第9回	7月9日	■ プロジェクト・マネージメント - プロジェクト・マネージメントとツール、質疑応答(全般)						■ KAS 4: Spoilers					
第10回	7月16日	■ 開発の管理 - TRL's、WBS、開発戦略構想例						■ Review & KAS Set Up					
第11回	7月30日	■ SEとRequirement Based Engineering - SEとRBE						■ KAS Practice in Groups					
第12回	8月6日	■ KAS Practice in Groups						■ KAS Practice in Groups					
第13回	8月20日	■ KAS Practice in Groups						■ KAS Practice in Groups					
第14回	8月27日	■ KAS Practice in Groups						■ KAS Practice in Groups					
第15回	9月3日	■ KAS Practice in Groups						■ Live Demonstration for Graduation ・修了式					



## ② 受講生

定員 25 名（社会人 20 名、院生 5 名）に対し社会人 34 名、院生 5 名の合計 39 名の受講申し込みがあった。社会の航空機産業関連企業の必要性和喫緊の要請に対応するため全員を受け入れた。途中 1 名が個人都合のため棄権。

## ③ 講座

上記①項のカリキュラムにより実施。担当講師陣は航空機関連企業の第一線で活躍中の管理者層の方々が担当した。

### ■航空機開発技術：

一般財団法人日本経済研究所 技術事業化支援センター長	島 裕
三菱重工業(株) 交通・輸送ドメイン民間機事業部 787 技術部 部長	田中 博幸
交通・輸送ドメイン民間機事業部 787 技術部 階十画管理課 課長	井野 晋也
交通・輸送ドメイン MRJ 事業部 工作部 生産計画課 課長	岸川 稔 技術
統括本部ものづくり革新推進部 主席部員	和久 浩行
三菱航空機(株) 品質保証本部 品質企画部 グループ長	高植 実
技術本部 開発保証部 主幹技師	森本 淳
航空機安全統括室 副室長	戸上 健治
名古屋大学大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 特任准教授	林 賢吾

### ■International Cross-Culture Communication：

Native 講師	Adam Christopher Serag <sup>1</sup>
Native 講師	Tarro Heyes <sup>1</sup>
Bi-lingual 講師	山田 美絵 <sup>1</sup>

\*注 1: (株)ECC

講座のの様子を以下に示す。

開講式の様子



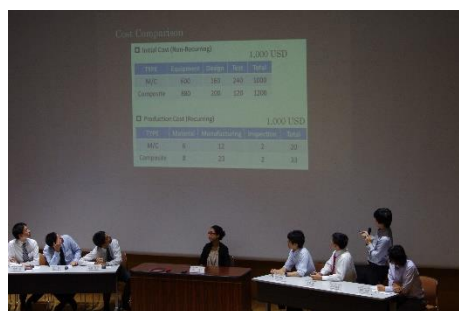
講座の様子



演習の様子



成果報告会の様子



修了式の様子



### 3-2 GPL 講座評価・要請の調査（受講生・企業等）・分析

#### ④ アンケート調査・分析

企業のニーズにあった講座内容としていくために、平成 27 年度上期に実施した GPL 講座に参加した受講生、及びに受講生の属する企業の上司にアンケートを実施した。その結果、受講生 38 名中 32 名、上司 22 名中 17 名から回答を入手した。

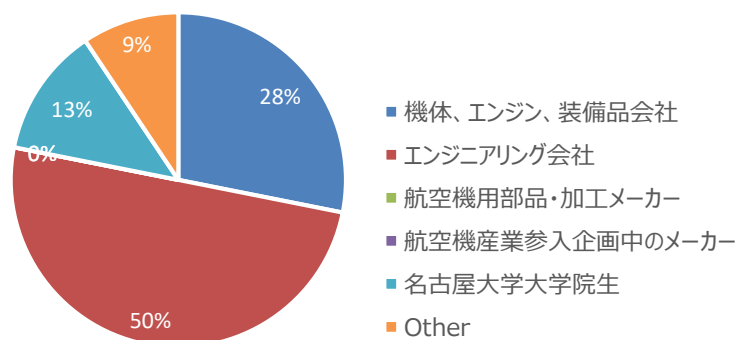
⑤ アンケート内容と結果 アンケート内容と集計結果はそれぞれ本報告書に添付する参考資料を参照方。ここでは要点のみを抜粋する。

【受講生】下記内容について調査（要点のみ記載）

#### 1. 全般情報について

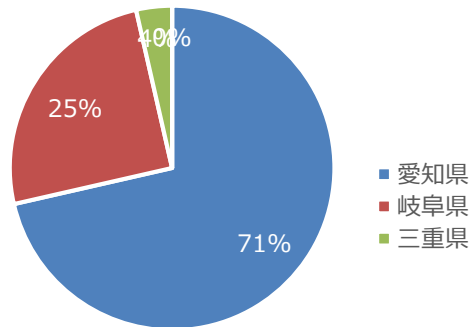
##### ■ 所属区分(32 responses)

機体、エンジン、装備品会社	9
エンジニアリング会社	16
航空機用部品・加工メーカー	0
航空機産業参入企画中のメーカー	0
名古屋大学大学院生	4
Other	3



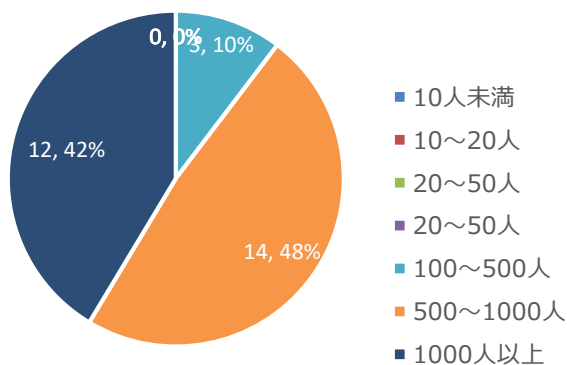
■勤務先所在地（名古屋大学大学院生は回答不要：以下「★」カ所同様）（28 responses）

愛知県	20
岐阜県	7
三重県	1
Other	0



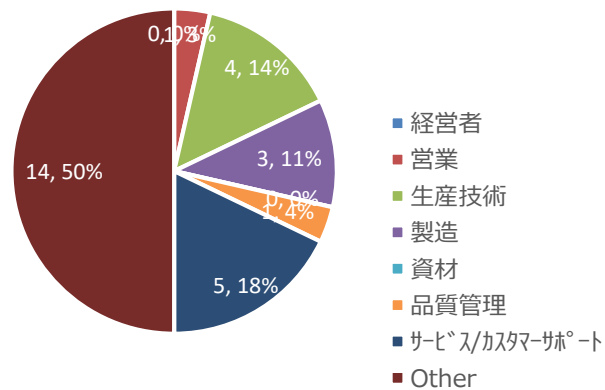
■従業員数（★）（29 responses）

10人未満	0
10～20人	0
20～50人	0
20～50人	0
100～500人	3
500～1000人	14
1000人以上	12



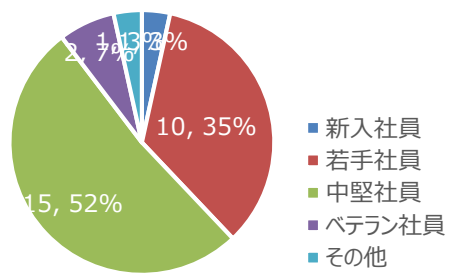
■受講生の職種（複数回答あり）（★）（28 responses）

経営者	0
営業	1
生産技術	4
製造	3
資材	0
品質管理	1
サービス/カスタマーサポート	5
Other	14



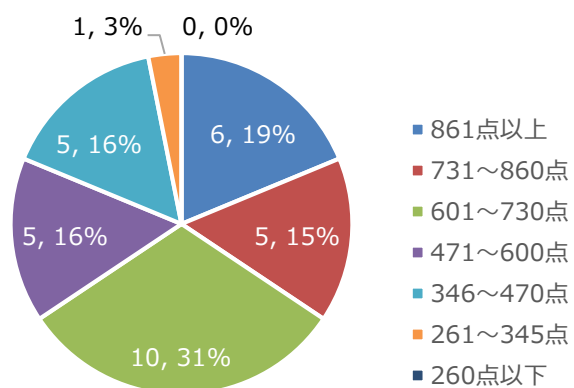
■勤続年数について（★）（29 responses）

新入社員	1
若手社員	10
中堅社員	15
ベテラン社員	2
その他	1



■ 受講生英語レベル (TOEIC 換算) (32 responses)

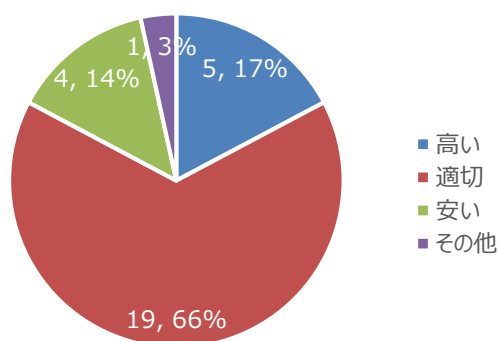
861 点以上	6
731~860 点	5
601~730 点	10
471~600 点	5
346~470 点	5
261~345 点	1
260 点以下	0



## 2. GPL 講座に関する会社支援について

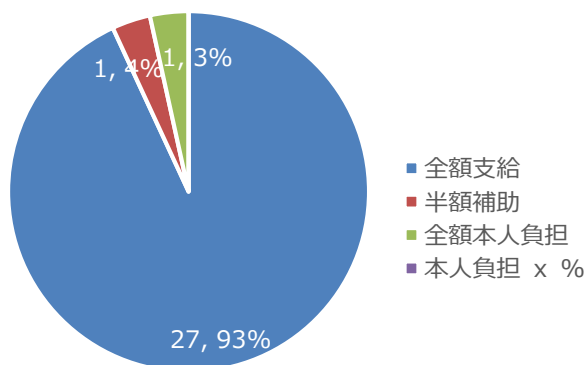
■ 講座に対する会社側支援について (★) \_\_授業料 25 万円/人 (授業内容・成果を考慮して)  
(29 responses)

高い	5
適切	19
安い	4
その他	1



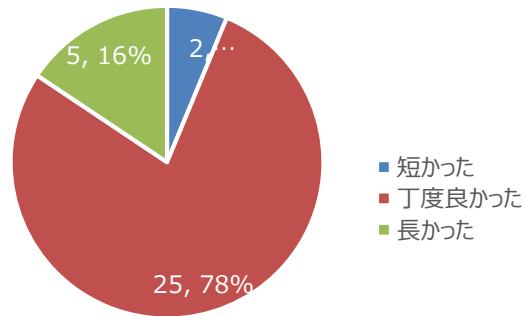
■ 講座に対する会社側支援について (★) \_\_会社の支援(29 responses)

全額支給	27
半額補助	1
全額本人負担	1
本人負担 x %	0



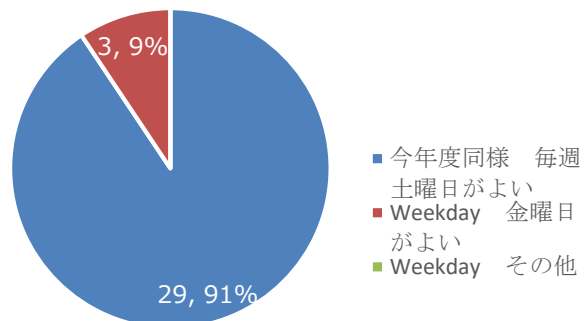
■ 期間： 75 時間／15 回(32 responses)

短かった	2
丁度良かった	25
長かった	5



■ 開催日について(32 responses)

今年度同様 毎週土曜日がよい	29
Weekday 金曜日がよい	3
Weekday その他	0



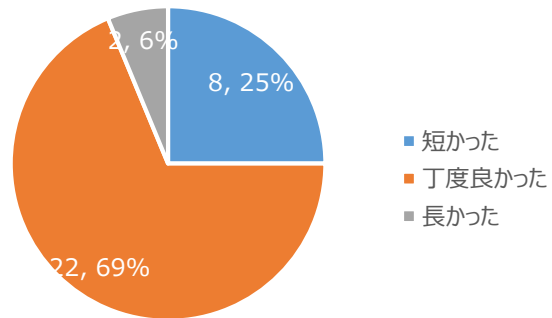
■ 上記で「Weekday その他」を選択された場合はご希望の曜日を記入して下さい。(0 responses)

No responses yet for this question.



■ 時間数： 午前 2 時間、午後 3 時間(32 responses)

短かった	8
丁度良かった	22
長かった	2

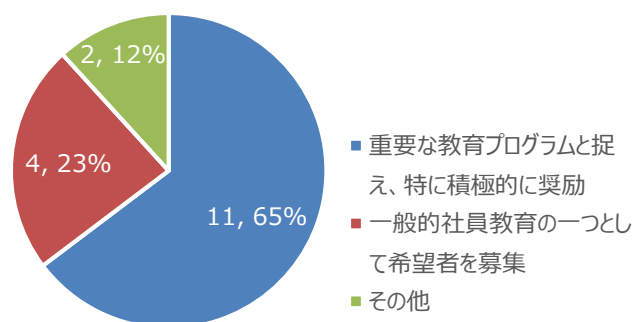


【企業の上司】下記内容について調査（要点のみ記載）

1. GPL 講座に関する企業の取組み

■ GPL 講座の位置付け(17 responses)

重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励	11
一般的社員教育の一つとして希望者を募集	4
その他	2



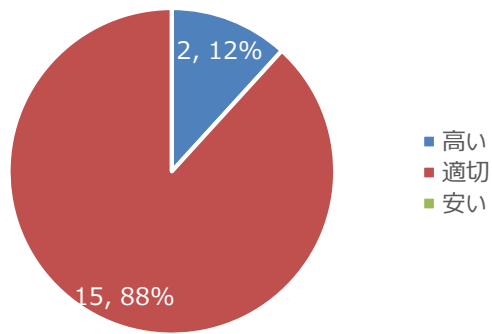
■ 上記で「その他」を選択した場合は理由を記入して下さい。（2 responses）

本人からの申し出により、本講座を知り、非常に有用であると判断しました。

強い意志を持った(土曜の自己研鑽)若手向けに奨励

■ 授業料について（17 responses）

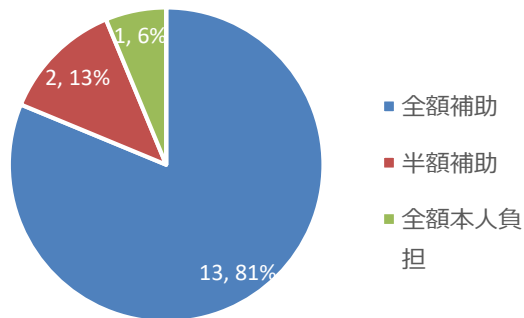
高い	2
適切	15
安い	0



■ 上記で「高い」又は「安い」を選択した場合は妥当と思われる授業料を記入して下さい (1 response)  
自己啓発だと本人負担が大きく少し高い

■ 授業料に関する御社の支援 (16 responses)

全額補助	13
半額補助	2
全額本人負担	1
本人負担 x %	0

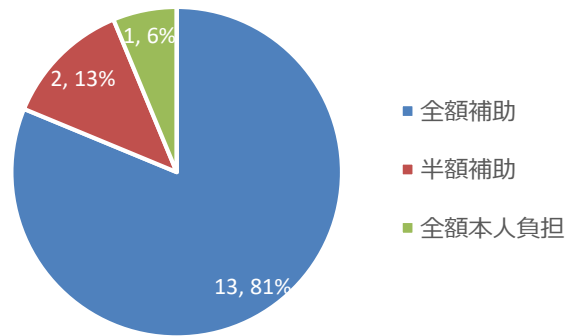


■ 上記で「本人負担が x %」を選択した場合はパーセントを記入して下さい (0 responses)  
No responses yet for this question.

■ 就業時間扱い (17 responses)

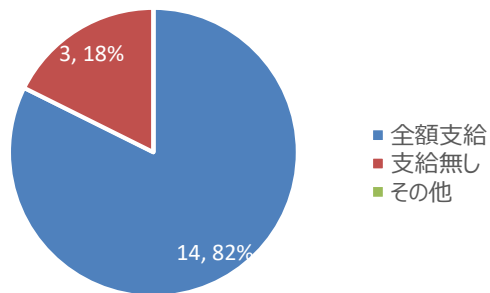
就業時間扱い／休日授業は休日残業扱い	5
就業時間扱い／振替にて残業扱いなし	1

就業時間扱いしない 10  
 その他 1



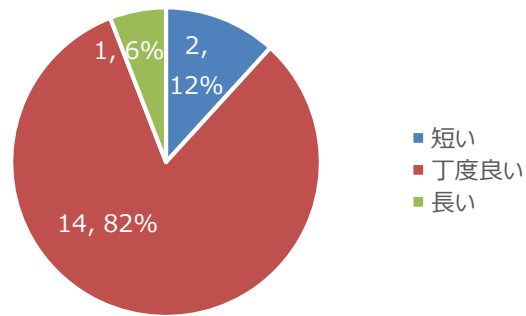
■ 交通費 (17 responses)

全額支給 14  
 支給無し 3  
 その他 0



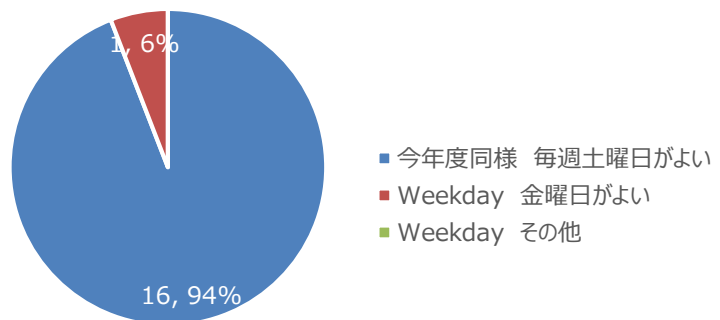
■ 開講期間について\_\_期間 75 時間・全 15 回(17 responses)

短い 2  
 丁度良い 14  
 長い 1



### ■ 講座開催日について (17 responses)

今年度同様 毎週土曜日がよい	16
Weekday 金曜日がよい	1
Weekday その他	0



### 3-3 講演会企画

GPL 講座で取上げる課題を提供して頂くべく業界で著名な方々に基調講演を依頼した。また、この基調講演に関し GPL 講座受講申込締め切り前に受講候補者や企業上司等に案内を発出し GPL 講座の説明(以下の3-5の事業 PR 講演会)と共に基調講演会を開催し参加者への情報発信を行う企画を立てた。

講演者と課題は下記のとおり。

① 島 裕

＜一般財団法人日本経済研究所 技術事業化支援センター センター長＞  
「航空機製造産業の現況と解くべき課題」

② 奥田 章順

＜株式会社三菱総合研究所 ものづくり革新事業センター 参与 チーフコンサルタント＞

「航空機産業の展望（ビジネスモデルとデジタル化）」

③ 福田 豊

＜国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 航法システム領域長＞

「航法システムと航空管制技術の動向と課題」

④ 小林 宏至

＜全日本空輸株式会社整備センター名古屋技術駐在部長＞

「運航と整備」

⑤ 岸 信夫

＜三菱航空機株式会社 取締役副社長執行役員・チーフエンジニア＞

「国産民間旅客機 MRJ の開発と今後」

### 3-4 講座改善計画

GPL 講座が企業の要請にあった主旨のものになっているかどうかを判断するために GPL 講座内容や実施方法に対する改善点を調査すべくアンケート調査及び、企業聞き込みを実施した。

以下が改善案の具体例：

- 構造関連が主体だが装備関係の講義を盛り込む
- 運航と整備関係の講義を追加する

上記改善案は H29 年度の GPL 講座での盛り込みや改善を検討していく。

### 3-5 講座開講準備（教材・講師手配・講義会場手配等） 上記のアンケート結果や改善案を盛り込むべく、平成 29 年度 GPL 講座開講に向けた準備作業として 以下を実施した。

- ① 教材の準備 航空機開発教材のうち、航空機関連講演資料集整理し重複内容を削減した。
- ② 講師派遣要請及び調整

航空機開発関係の教師 10 名（含む開講日の講演者 1 名）と調整し、カリキュラムに従った課題での講義を依頼した。

ビジネス英会話の講師はネイティブ 1 名とバイリンガル 1 名を調整の受け決定。

- ③ 講義会場手配

平成 29 年度 GPL 講座用に講義室を設定、チーム分けで演習のしやすい講義部屋を設定した。 開講式及び修了式にはホールを予約し、受講者及びその上司が出席できるよう設定した。

### 3-6 事業PR講演会開催（航空機開発とその課題）

3-2で企画した基調講演会とGPL講座紹介を3月4日(土)に実施した。多数の事前申込みがあり、110名以上の聴講があった。アジェンダを下に示す。

#### GPL講座の紹介と基調講演のアジェンダ

(敬称略)

第一部	
13:00-13:50	島 裕 株式会社日本政策投資銀行企業金融第1部 技術事業化支援センター長 「航空機製造産業の現況と解くべき課題」
14:00-14:50	奥田 章順 株式会社三菱総合研究所 ものづくり革新事業センター 参与 チーフコンサルタント 「航空機産業の展望（ビジネスモデルとデジタル化）」
第二部	
15:00-15:50	福田 豊 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航法システム領域長 「航法システムと航空管制技術の動向と課題」
16:00-16:50	小林 宏至 全日本空輸株式会社 整備センター 名古屋技術駐在 部長 「運航と整備」
17:00-17:50	岸 信夫 三菱航空機株式会社 取締役副社長執行役員 「国産民間旅客機 MRJ の開発と今後」

基調講演の講演者及び講演会の様子の写真を以下に示す。

林先生による主催者挨拶の様子



日本経済研究所  
技術事業化支援センター 島センター長



三菱総合研究所株式会社  
奥田チーフコンサルタントの講演の様子



電子航法研究所  
福田氏の講演の様子



全日本空輸株式会社  
小林部長の講演の様子



三菱航空機株式会社  
岸福社長の講演の様子





#### 4. 纏め

平成 29 年度事業に向けた比較データとしてアンケート調査およびその分析を行った。その結果、平成 28 年度に実施した GPL 講座の基本的な枠組みは企業および受講生から好意的に受けとめられていて引き続き同内容で継続してほしいという希望が多いことがわかった。このため、平成 29 年度に実施する GPL 講座の格子は、3-3 項の改善を考慮して基本的には平成 28 年度に実施した GPL 講座のやり方を維持することとした。但し 3-3 項に掲げられる講座の実施要領に対する改善点を盛り込むこととした。平成 29 年度に実施する GPL 講座においても今年度と同様なアンケートを実施し講座が企業に要求に即したものとしていく。

企画した基調講演会は多くの参加者(110 名以上)に聞いていただき、平成 29 年度事業における GPL 講座開催趣旨を周知するにあたり有効であった。

以上

## 参考資料 アンケート集計結果

文部科学省委託事業

## 高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム

「航空機開発グローバルプロジェクトリーダー養成大学院プログラム」

平成 28 年度航空機開発 GPL 講座アンケートとその結果

平成 28 年 12 月 16 日

国立大学法人名古屋大学大学院工学研究科

航空宇宙工学専攻

GPL 事務局

## 目 次

### 第一部

平成 28 年度 GPL 養成講座アンケートと結果－受講生

### 第二部

平成 28 年度 GPL 養成講座アンケートと結果－会社上司

# 平成 28 年度 GPL 養成講座アンケートと結果 – 受講生

## RESPONSES

32

32 responses

## SUMMARY

Accepting responses

### アンケート回答のお願い

今年度の GPL 講座を受講後、会社業務に直接・間接的に成果を発揮していただけているか、グローバルリーダーへ踏みだすに相応しい積極的な取組みができるような下地が整ったか受講生の視点で本講座の有効性を評価してください。

忌憚のないご意見・回答をお願いします。

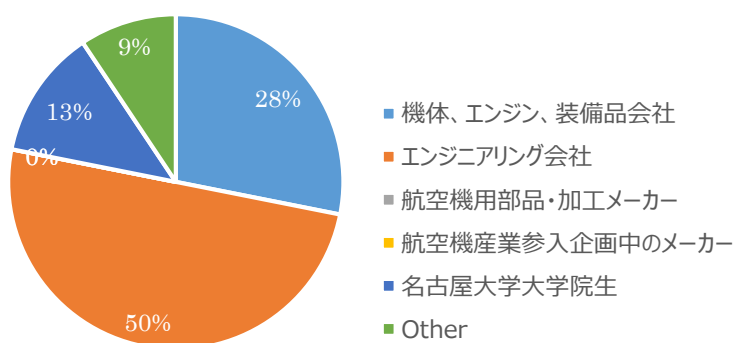
### ■ 社名

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社	1
岡谷鋼機株式会社	1
株式会社 タマディック	1
株式会社 ヘリサーブ	4
株式会社 メイテック	0
株式会社 和田製作所	0
株式会社 中央エンジニアリング	2
株式会社 中央図研	2
川崎重工業株式会社	5
川重岐阜エンジニアリング株式会社	1
シンフォニアテクノロジー株式会社	1
中菱エンジニアリング (株)	6
トヨタ紡織株式会社	1
名古屋大学大学院	4
富士ゼロックス株式会社	0
三菱重工業 (株)	1
三菱スペース・ソフトウェア (株)	2

全般情報について確認させていただきます。

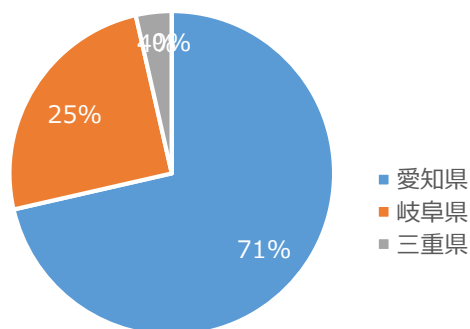
■所属区分(32 responses)

機体、エンジン、装備品会社	9
エンジニアリング会社	16
航空機用部品・加工メーカー	0
航空機産業参入企画中のメーカー	0
名古屋大学大学院生	4
Other	3



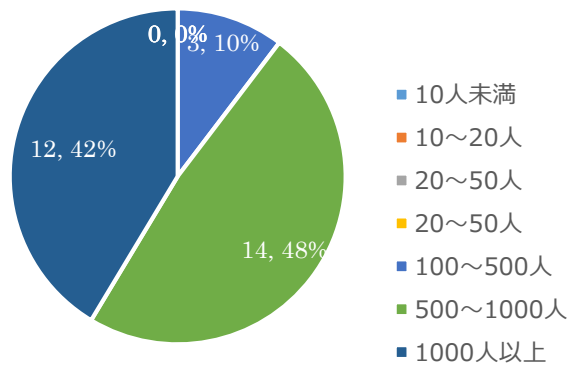
■勤務先所在地（名古屋大学大学院生は回答不要：以下「★」カ所同様）（28 responses）

愛知県	20
岐阜県	7
三重県	1
Other	0



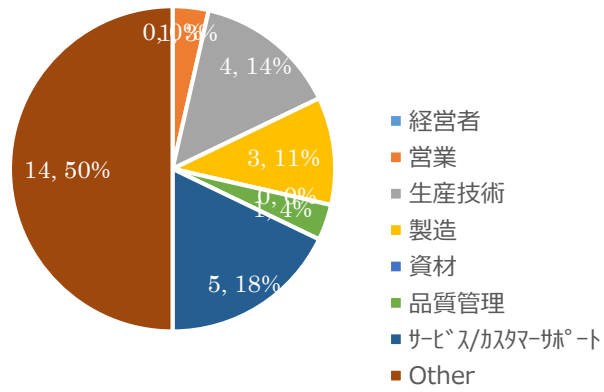
■従業員数 (★) (29 responses)

10人未満	0
10～20人	0
20～50人	0
20～50人	0
100～500人	3
500～1000人	14
1000人以上	12



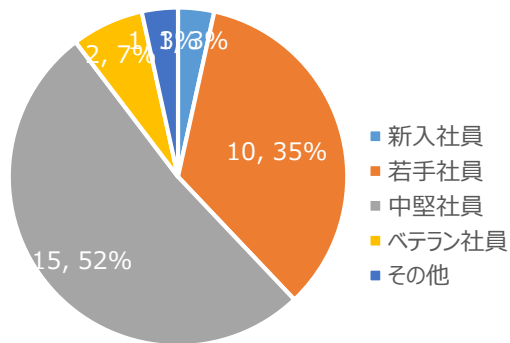
■受講生の職種 (複数回答あり) (★) (28 responses)

経営者	0
営業	1
生産技術	4
製造	3
資材	0
品質管理	1
サービス/カスタマーサポート	5
Other	14



■勤続年数について (★) (29 responses)

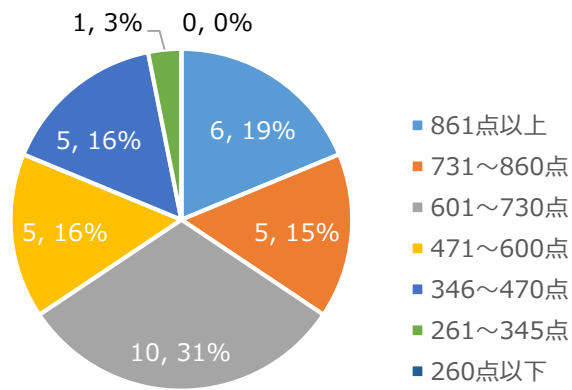
新入社員	1
若手社員	10
中堅社員	15
ベテラン社員	2
その他	1



■受講生英語レベル (TOEIC 換算) (32 responses)

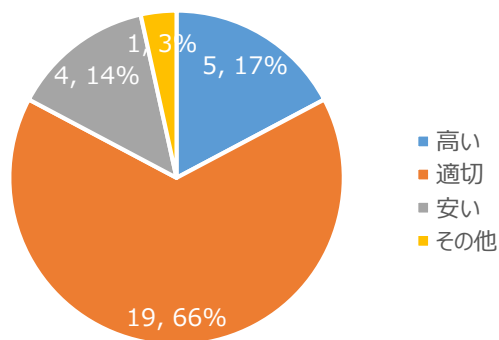
861 点以上	6
731~860 点	5
601~730 点	10
471~600 点	5
346~470 点	5
261~345 点	1
260 点以下	0





■ 講座に対する会社側支援について (★) \_\_授業料 25 万円/人 (授業内容・成果を考慮して) (29 responses)

高い	5
適切	19
安い	4
その他	1



■ その他を選択された場合は適切と思われる授業料を記入して下さい。 (3 responses)

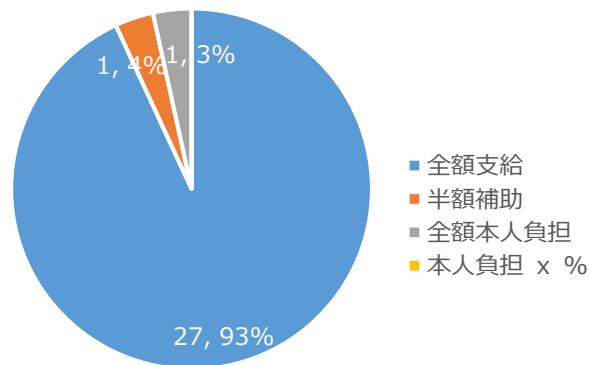
航空機講座 12.5 万円、英語講座 7.5 万円

15～20 万/人

15～20 万円/人

■ 講座に対する会社側支援について (★) \_\_会社の支援(29 responses)

全額支給	27
半額補助	1
全額本人負担	1



■「本人負担 x %」を選択された場合は本人負担の%を記入して下さい。(0 responses)

No responses yet for this question.

■「意見記述\_\_上記項目に関しコメントがありましたら記述願います。(3 responses)

受講料が高額のため、会社による補助が受けられないケースのため出席をためらってしまっている人も多々いると思います。午前の技術講義だけでももう少し安価で受講することができれば参加者も増え、横の繋がりを広げるチャンスになるはずで

特になし

特にありません。

### 講座内容および今後の活用に関する質問

#### ■ 航空機開発・プロジェクト関連

- A: 新たな知識や経験を多く習得することができた。
- B: 新たな知識や経験を多少習得することができた。
- C: 新たな知識は何も習得できなかった。

	A	B	C
第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	24	8	0
第2回 航空機開発の特質	26	6	0
第3回 航空機の認証に関する Regulations とガイドライン	24	8	0
第4回 品質管理と特殊工程	20	12	0
第5回 商品企画と開発の流れ	22	9	1
第6回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント	19	11	2
第7回 航空機開発手法	24	8	0
第8回 開発手法の傾向	22	8	2
第9回 プロジェクト・マネージメント	28	4	0
第10回 開発計画の管理	21	10	1
第11回 SEと Requirement Based Engineering	24	6	2

## ■ International Communication 関連

A: 新たな知識や経験を多く習得することができた。

B: 新たな知識や経験を多少習得することができた。

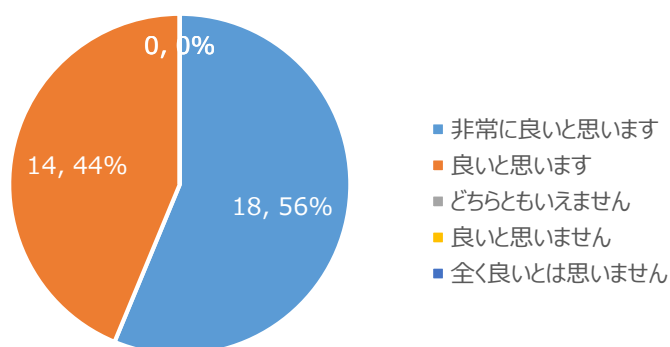
C: 新たな知識は何も習得できなかった。

	A	B	C
第1回 Introduction	21	10	1
第2回 Cross Culture Communication	21	10	1
第3回 Meeting Skills & Exploring Culture	22	9	1
第4回 KAS3:Aliminum vs Composite Materials	21	9	2
第5回 Negitiation Skills & Exploring Culture	25	6	1
第6回 KAS4:Spoilers	22	8	2
第7回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	22	9	1
第8回 KAS2:Wing Skin	21	8	3
第9回 Presentation Skills & Exploring Culture	23	8	1
第10回 KAS1:Phyical vs Digital Mockups	19	10	3
第11回 Review & KAS Set Up	24	7	1
第12~14回 KAS Practice in Groups	25	7	0
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	27	4	1
第15回 成果発表	27	4	1

## 講座の狙い・目標の達成度

### ■ 講座手法(32 responses)

非常に良いと思います	18
良いと思います	14
どちらともいえません	0
良いと思いません	0
全く良いとは思いません	0



■意見記述\_GPL 講座を改善する案をお持ちでしたら記入をお願いします。(16 responses)

人数が多かったので、前期・後期の二組に分かれて講座が受講できれば良かったと思いました。

生産技術系の講義を追加して欲しい。

私が英語を苦手としているのが原因でもありますが、例えばマテリアルなど馴染みがあまりない分野に対していきなり英語でディスカッションの練習をしても議論が膨らまずグダグダになってしまう、という場面が何度かありました。そこで、英語のディスカッションについて、その日の午前講義で実施した内容を課題にするなど、意見が出やすいようにすることで、より濃い練習になると感じました。

"事業として成立する"もの作りを考える機会もあると良いと思います。(カスタマーサポートの概念がまだまだ浸透していない実感があるので)

機体を実際に運航しているエアラインの整備担当者（経験者）の方の授業があると良い。エアラインの方から直接話を聞く機会がないため、有益であると考えます。

英語クラスはクラス分けして、せめて生徒 8 人に対して講師 1 人程度にしてほしかったです。費用的な問題もあると思うので、講師数を増やせるなら、午後の授業は半分程度にしてもよいと思います。いわゆる英会話学校ではないことは理解していますが、人前で英語を話す時間が少なすぎると感じました。GLOBAL PROJECT LEADER を育成するのであれば、英語教育にももっともっと力を入れるべきと感じました。

午後の英語について、KAS 以外では会話形式の練習が少ないと感じた。また、KAS についても、やれなかった例題（Physical vs Digital Mockups）があり残念に感じた。

講義は全体内容に制限された気がします。インターネットを活用して、講義内容を講師自由に設定できるようにできるならもっと情報を伝えたいと思います

特になし

「航空機開発・プロジェクト」は話を聞くスタイルであったが、受講生が課題について考える時間があるとよかった。

・三菱だけでなく、川重や他の航空基幹企業からの講義も拝聴してみたい。ひいては BOEING や AIRBUS からも講師を招聘してはいかがだろうか？より広い視点で航空機産業を眺めることができるかもしれない。・英語授業については、もう少し難易度を上げてほしいと思う。英語レベルが様々なので理解するが、若干教材を聞いている時間が長いと感じた。より Interactive な内容にしてみてもどうだろうか？

International Communication 講義での One minute speech には長時間を要していたので、受講者を複数のグループに分けてスピーチしてはいかがでしょう。例えば、3 つのグループに分けたとすると、1/3 の時間短縮になります。

装備品に関する講座を追加してほしい。機体側から装備品に求めること。装備品会社の規模と開発規模のバランスのとり方。（装備品会社の規模が小さい場合、出来ないことは多々有。たとえば、インフラ面、解析等）

時間配分に関して、午前の座学を 3 時間、午後の英語 2 時間が適切なのかと感じました。自分を含め、午前の航空機開発の講義を目当てに来ている方が多かったこと、内容量に対して 2 時間では足りないと感じたことが理由です。

特に思いつきません。

International Communication にて、下名は実務の中で特に英語を使う機会がないのですが、日常的に英語を使用している GPL 参加者の方が、どのような問題に直面したかをリスニングし、それを題材にディスカッションするなど面白いかと思います。また関係各社が集まっているので、模擬エアショーのような授業はいかがでしょう。

■全 15 回カリキュラム・テキスト類・講師について

	10 非常によい	9	8	7	6 普通	5	4	3	2	1 良くない
カリキュラム全体	17	6	5	2	2	0	0	0	0	0
教材・テキスト	13	5	7	3	2	0	1	0	1	0
講師	20	4	3	2	2	0	1	0	0	0

■ 意見記述\_カリキュラム・テキスト類・講師についてコメントがあればご記入願います。(23 responses)

レギュレーションや特殊工程等、大学院生にとって馴染みのない内容が多いため、テキスト類を講義や Q&A と同様に噛み砕いたわかりやすいものにしていただくと講座内容の理解が進むのではないかと感じました。ただし、そうすることにより社会人の方々にとって物足りないテキストになる可能性は否めません。

無理なのですが、テキストと講師の方が使用される資料が社外秘の関係で一致していないため、社内報告を行うときに添付資料がないため少々困ります。

講師の方々、どんな人にも対応できるような方法で教えて頂きとても良かったです。

予備知識が必要と感じる内容が多かったため、予習できるような物があればよかったです。

午前の航空機技術の授業にて各カリキュラムをもっと詳細な内容にして頂くと技術者の私でももっと学べるものがあると考えます。

納品後のカスタマーサポート、という題材をリクエストします。

講義は動画を web で見れたら良いと思います。

教えることに慣れてらっしゃらない講師の方が散見された。

午後の授業で実施した 1 分間スピーチは非常に良かったです。その一方、スピーチに時間を取られて discussion の練習をする時間が全体的に少なく感じた。あと 30 分午後の授業が長くても良いと思う。

装備品に関する講座 (DO-178 や DO-254) についても入れて頂きたい。

林先生の講習内容は面白い

1 分間スピーチはとても良い案だと感じましたが、授業の約半分をその時間に費やしていたので、少しもったいないと感じました。

英語に関して、テキストに準じない日が多々見受けられ、カリキュラム通り予習をしても無駄に終わることがあったため見直しをいただきたい。また、スピーチが大半を占めていた(英語を聞くだけの時間が多い)ため、異文化の知識・ビジネス英語を学ぶ、英語を話す時間が多い方がビジネスミーティングの主導という観点で有効ではと感じた(例えばスピーチは 2 回に 1 回とする、歌のリスニングを廃するなど)。とは言え、英語での会議の流れ、慣用句について学べた事は実践的であり、今後の業務に活かせるものと感じた。航空機講座に関しては、現場で活躍する講師の方から講義いただき大変有意義であり、航空着産業・開発の様々な側面を体系的に学ぶことが出来、より技術を高めようという動機付けになった。以上から、講座や講師によって評価が異なるため、全て「6 普通」とさせて頂いた。

メモは取ったもののテキストの説明が少ないため、時間がたってから読み返した時にわかりにくそうだと思う。

MRJ の商品企画について、もう少し詳しくお聞きできたらよかったです。このサイズを選んだ理由や、マーケットへの参入時期など、もっとまとまった内容を以前聞いたことがあるような気がします。MRJ の営業を担当しておられる方を講師として呼ぶのはいかがでしょうか？

・講義テキストに関して、紙幅の都合があると思うが、スライド 1 枚につき 1 ページ分のメモ欄を設けてはいかがだろうか。ノートを用意するより後に復習しやすい。

テキストについて、FAQ 集や補足資料など、講義本編では触れられなかった詳細な情報が充実しており、予習/復習の助けとなりました。

テキストを最新化していただくと助かります。また、用語集のようなものがあると良いと思います。

講師の方に発表して頂いた内容とテキストに差がある場合が幾度か見られたので、見直す場合に有効になるよう改善願いたい。

午後の英語の講義は、1min スピーチは非常に有益でした。ただし、それ以外の動画を使った講義は、無くても良いと感じたことが多かったです。

講義していた内容は非常にわかりやすかった。可能であれば、運行業者、重工他社の方からの視点も提供いただければよりよかったです。



第 5 回 商品企画と開発の流れの講座で、商品企画に関する話にあまり触れてもらえなかったことが残念でした。

テキストは盛りだくさんで非常にためになります、持ち運ぶには重かったです。授業の補足参考程度の資料は WEB 掲載にして（もちろんセキュリティ対策をして）、各人自宅やスマホにて確認するようなスタイルはいかがでしょうか。

意見記述\_\_本講座の成果活用について自由記述をお願いします。(23 responses)

大学院生にとって本講座の成果は、航空機開発に関する知識、英語での表現力、社会人とのつながりの 3 点が主にあげられます。航空機開発に関する知識は就職活動時に企業研究及び自己アピールに活用できると考えています。

英語での表現力は、実際にさまざまな場面で使うこともさることながら、英語に対する興味のきっかけになり、さらなる英語力向上に向けた学習のトリガーとしても活用できると思います。社会人とのつながりは、自分の価値観を広げるためのさまざまな刺激になると考えています。また、航空業界に就職後の重要な人脈として活用できると考えています。

プロジェクトマネジメントの手法として PMBOK の存在が知れて良かったです。上司も興味を示しまして、早速購入しました。また開発管理の講座で習った WBS の手法を考慮しながら仕事の流れを見直し、自分の中で整理ができました。

今まで狭い範囲での知識しかなかったが、幅広い知識を習得できた。これからは、幅広い知識の一つ一つを深め、プロジェクトを纏められるだけの基盤を築きたい。

実業務は、数人で行うような小規模な仕事が多いのですが、プロジェクト管理については勉強になりました。

今後、英語でしっかりと相手に自分の意見を伝える事が出来る様、努力していきたい。

午後の講座で行っていた、1 分間スピーチは、英語作文の力や、短い時間で表現する方法など、かなり役に立ったと感じましたので、今後も個人的に続けてみたいと思います。

サプライヤと顧客との契約調整業務に活かしたいと思います。

変更できない PDF で良いので、毎講義で使用したスライドをインターネット上の「サイボウズ Live」などのグループウェア（アクセスは講師・生徒限定）にアップしていただきたい。

普段の業務で英語の読み書きはよくするが、英語を話す機会が無いため人前で話すことに慣れていなかった。この講座で訓練、練習方法のヒントが得られたため、今後の学習に活かしていく。

今後、機体メーカーとして、装備品メーカーと協力してボーイング社やエアバス社からの受注を目指す必要があると考えており、本講座を受講した。自分の業務での自分のすべきことをきちんと意識し、積極的に業務を進めたい。

飛行機業界の全体図を作りました

まず今回学んだことを自社に持ち帰り、全社員の前で展開し、会社全体としてどう新規分野開拓ができるか考えていきます。

WBS・フローの作り方で学んだ事(佐藤講師)は、現在の業務で活かしている最中であり、私にとって最も実務に適用できる内容であった。作成した成果について、作業社内展開することで作業品質の維持に役立てる予定である。

認証・Regulation は、現在の業務（Boeing 機設計開発）と関係が強いため、知識が増え、後輩などに説明がしやすくなった。

即活用する予定はありませんが、今後、本講座を通じてできた人脈等が生きることはあるのではないかと思います。

英語でのミーティング開催については、今後参考にしていきたい。アダム先生もしきりに言っていたように、定型表現は覚えるしかない。

弊社が航空機開発・プロジェクトを遂行するに当たり、材料技術という特殊な部門に属する私が何をどのように取り組んでいけば良いのか再考する良い機会と知識、人脈をいただけたと思います。航空機開発のためには、先進技術の研究開発だけでなく、自社の技術基盤（スペックやデータ整備など）をより一層充実させていくことが先決であるという考えに至りました。これを設計・生産部門、協力会社と連携して遂行していきたいです。

良いきっかけを得ることができました。特に中堅社員向けには、日々の仕事に追われていますが、改めてモチベーションを得る機会・刺激を得ることが出来たと思います。

当社内でも航空機産業を俯瞰して捉えて業務にあたっている人は、まだ少ないと感じているので、折に触れて今回の講座で学んだことを展開していき、考えるきっかけにできればと考えている。

担当している設計業務からは得られない知識を習得することが出来ました。自分は将来航空業界で何が出来るのか、開発担当者の一人で終わらたくないと強く思うきっかけになったと思います。

体系的に様々な視点から航空機開発について学ぶことができ、リーダーとして活動する際に非常に有益に使える知識が身についた。欧米人から日本人がどう見えているかを確認することで、日本国外のパートナーと接する際に誤解を生まず建設的な議論を進めるための心構えが身についた。

自分が“講座の有効性について”の冒頭で説明されていることを実感し、触発されていることは一つの成果であると考えます。自分の目標を定め、それに向かって何をするかを明確にし、実践していくことが成果を活用することであると思われま

す。  
本講座の成果の活用について自由記述をお願いします。

#### カリキュラムの内容・量について：

- A： 不足している
- B： 適切である
- C： 過剰である
- D： 不要である

#### ■ 航空機開発・プロジェクト関連

	A	B	C	D
第 1 回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	2	30	0	0
第 2 回 航空機開発の特質	2	28	2	0
第 3 回 航空機の認証に関する Regulations とガイドライン	3	28	1	0
第 4 回 品質管理と特殊工程	6	24	2	0
第 5 回 商品企画と開発の流れ	5	24	3	0
第 6 回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント	6	26	0	0
第 7 回 航空機開発手法	3	27	1	0
第 8 回 開発手法の傾向	6	22	3	0
第 9 回 プロジェクト・マネージメント	9	21	2	0
第 10 回 開発計画の管理	8	23	1	0
第 11 回 SE と Requirement Based Engineering	9	21	2	0

- A： 不足している
- B： 適切である
- C： 過剰である
- D： 不要である

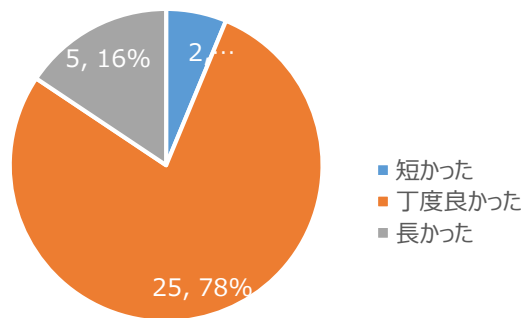
#### ■ International Communication 関連

	A	B	C	D
第1回 Introduction	3	29	0	0
第2回 Cross Culture Communication	4	28	0	0
第3回 Meeting Skills & Exploring Culture	7	24	1	0
第4回 KAS3:Aliminum vs Composite Materials	4	25	2	1
第5回 Negitation Skills & Exploring Culture	7	24	0	1
第6回 KAS4:Spoilers	5	23	3	1
第7回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	6	25	0	1
第8回 KAS2:Wing Skin	5	24	1	1
第9回 Presentation Skills & Exploring Culture	7	23	1	1
第10回 KAS1:Physical vs Digital Mockups	7	21	2	1
第11回 Review & KAS Set Up	5	25	1	1
第12~14回 KAS Practice in Groups	5	26	1	0
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	4	27	1	0
第15回 成果発表	3	29	0	0

#### 期間・開催日

■期間： 75時間／15回(32 responses)

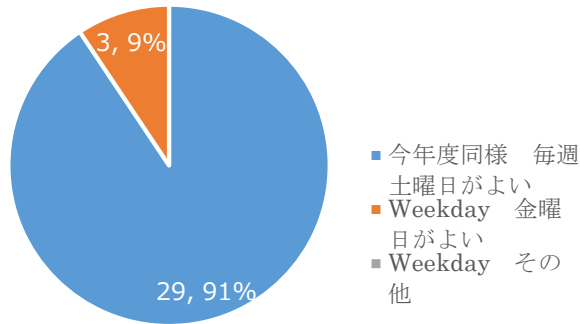
短かった	2
丁度良かった	25
長かった	5



■開催日について(32 responses)

今年度同様 毎週土曜日がよい	29
Weekday 金曜日がよい	3
Weekday その他	0



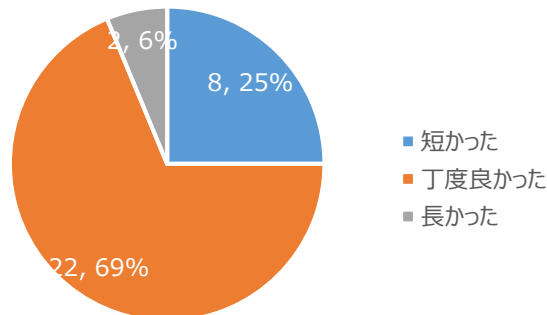


■ 上記で「Weekday その他」を選択された場合はご希望の曜日を記入して下さい。(0 responses)

No responses yet for this question.

■ 時間数： 午前 2 時間、午後 3 時間(32 responses)

短かった	8
丁度良かった	22
長かった	2



■ 意見記述\_\_GPL 講座開講期間・開催日に関しコメントがあれば記述願います。(17 responses)

午前中の講座が 2 時間なのは、少々短く感じました。実際、お昼にずれ込むことが多かったため、もう少し時間に余裕があった方が良かったと思います。

たまたま派遣に行っていることもあり、GPL の休日と長期休暇が合わないところがありました。

1 日辺りの時間数をもっと長くして頂き、期間をもっと短くして頂きたい。長くて 3 ヶ月です。短期集中が望ましい。特にありません。

月に一回程度お休み出来る土曜日があるとよいと思います。

午前中の航空機開発の講義の時間が短いです。休憩を挟んだ 3 時間が適切かと思います。

英語クラスは間延び感が否めなかったもので、例えば講師 5 人で 1 クラス 8 人、時間は 60 分、その中で人前で話す訓練をさせてもよかったのではないかと思います。

土曜日に良いと思います

特になし

午前 3 時間、午後 2 時間として午後に早めの終了だと良かった(個人の都合。平日開催の場合はその限りでは無い)

個人的には、とても長かった(開講期間・時間数共に)と感じましたが、本講座の目的を思えば、この程度は必要なのだろうと考えなおしました。

午前中は 9 時スタートの 3 時間でもいいのかと思う。

現状のままでよいです。

お盆休みを挟んでおり、適切な時期だと感じた。あえて変える必要はないと考える。

配布いただいた資料に非常に情報量が多く、個人でも学ぶことが出来てよかった。しかし、航空機開発に関する講義は時間が短く、聞き足りない部分もあった。International communication 関連の講座は、英語が比較的出来る方も、出来ない方もそれぞれにとって勉強になるよい講義だったと感じる。

午前講義に関して、時間が足りていない印象を受けました。どのテーマに関しても、2 時間の枠組みに収めるには難しい内容であったと思います。また、受講後の生徒側の質問を聞いていると興味深いものが多く、他分野の者こそ知っておくべきことがあるように思いました。様々な分野、年代の方が集まっているので、各テーマに関して意見交換(ディスカッション)等が出来る時間があると、より広い知見が得られるのではと感じました。

講座全体に関しては、約 3 ヶ月の間、土曜日がなくなるのは厳しかったです。個人的な要望としては、金曜開催で、航空機開発・プロジェクト関連講座と International Communication 関連講座を隔週開催で三時間ずつで実施して頂けたら、各講座に関してより深く考えることが出来るかと思いました。

個人的な問題もありますが、予習復習の時間があまり確保できませんでした。普段の業務の他、家事、育児が重なるとどうしても難しくなってしまいます。講座 2 回ごとに 1 回休講を入れていただけると、もう少し余裕を持って講座に臨めたのではないかと個人的には思います。もしかしたら、私の甘えなのかもしれませんが、ご検討ください。

#### ■ 成果発表の感想 (自由記述) (28 responses)

最終回の成果発表においては、準備期間がやや不足していたように感じました。実際に学んだ、negotiation や meeting スキルを十分盛り込めなかったと感じました。Adam 先生に教えていただいたコミュニケーションのフレーズ等を入れることができたものの、相手の国の文化まで考慮したりする成果発表にはなっていなかったのではないかと感じました。講座で学んだスキルを十分活用し披露するためにも準備期間はあと 2 回分程度長く設けていただきたいと思いました。もしくは、講座の中盤の KAS を Script を作成したりするなど、最終発表をより強く意識してものにしたほうが良いのではないかと感じました。

練習でうまくいっていても、質疑応答で適切な回答をできなかったのが反省点だと考えています。成果発表の前提として、会社同士のマネージャー対マネージャーの会議と言うことでしたので、資料は簡潔に作成したのですが、簡潔にしすぎたために資料中の"strength"の内訳について物言いがついたのは想定外でした。「学会発表や、Engineer 対 Engineer のミーティングであれば、Static strength や Fatigue strength、Fracture toughness 等を細かく討議するけれども、今回は時間制限付きのマネージャー対マネージャーの会議である。」ということを英語で説明できれば良かったのですが答えに窮してしまったので、まだまだ研鑽が足りないと感じています。

成果発表を通していろいろな人達とコミュニケーションも取れましたし、いろいろと学ぶこともありとても有意義な時間となりました。準備は大変でしたが、最後は上手く行って良かったです。

成果発表の題材などは良かったと思います。また Team 毎に特徴が出て、その差を楽しんで見れました。質疑応答において、皆様担当されたことのある内容のようで、専門的な質問が多かったと思います。そこまで調べていない受講者の勉強不足なのか、受講者の会社で扱っていない部品にそこまでの質問をするのが酷なのか、質問する側も難しそうにしているように思えました。

私たちが自らをプロジェクトリーダーとして感じられるようなシミュレーションができて良かった。日々の業務と並行して、課題に取り組むことは辛かったが、少ない時間の中でスケジュールを管理し、成果発表で最高のパフォーマンスができたことは私の自信に繋がった。非常に良い経験をさせて頂いて、とても感謝しています。

成果発表自体は問題なくできたのですが、航空機に関する知識や英語力において自らの能力の足りなさを感じました。

非常にいい経験が出来た。今後、業務に生かしたい。

チーム当たりの人数が多かったため、議論としてまとめることが難しかったです。例えば、3対3で10分間にすれば議論として成立させやすくなると思います。

仕事で経験する可能性が高いシチュエーションをチームで模擬練習することは、非常に価値があると思います。題材が素晴らしいのでやりがいがありました。最後は無難にまとめましたが、とても楽しかったです。

良かったと考えます。

非常に良い経験ができた。人前で話すことに対する抵抗もかなり少なくすることが出来た。ただ、チーム内での打ち合わせの際、後半は殆ど日本語で進めてしまった。英語で会話しながら発表内容を纏めるのは、自身の会話力が不足しており、またチーム員同士でも差があり、非常に難しかったです。

思っていたよりも形になっていて、非常に良かったと思います。

多くの企業の方がみえる場で発表したことは、今後の学生生活とその後の生活における自信につながると思います。貴重な体験をさせていただき、どうもありがとうございました。

10人で1つのチームとして、1つのディスカッションを作りあげたことは、楽しかった。本番もそうであるが、準備において、積極的に意見交換をすることもできた。本番では、会場からの質問に答えることが出来ずに悔しかった。その場での対応が出来るよう積極性と瞬発力（思考の）及び英会話力をこれからも鍛えていきたい。

各チームによって色が全然違うのでおもしろかった。ずっと座って議論するよりも、立ったり座ったりして動いた方が見ている方はおもしろい。その点では、チーム4の最初に挨拶するところがよかった。

緊張感がありましたが、よくできたと思います。会社の上司の前もアピールできました。

成果発表の日が1番良い発表となったと思います。あのような会話が実際のビジネスの場で起こるようになればいいなと感じました。

英語での会議を実際に体験することで少なからずその手法について身につけることが出来た。今後は英語での会議の流れ・作法を知らないであろう多くの日本人が、それを知ることが重要であると感じている。

自然な Meeting や Negotiation を行ないたかったが、20分間・舞台・英語という条件のため、あらかじめ準備したシナリオを見せることとなり、違和感があった。また、上司は期待が外れたような様子だった。準備しておくにしても、議論の内容をもう少し詰めたかった。

元来ひとまえて話すのが苦手でありましたので、こういった形の成果発表はストレスを感じるものでしたが、チームメイトの助けもありやり遂げることができました。講義毎の一分間スピーチや、講座最終日の日本語スピーチをして感じましたが、こういったストレスを受けると、壇上では思考が極端に狭まり、内容を考えて話すことができなくなるように思いました。自分のこのような状態を知ることができたのが最も価値あることであったように思います。今後は、このようなストレスをコントロールするために必要なトレーニング等を調べ実践していきたいです。

・本番は一番の出来だったと思う。緊張に負けずメンバー全員が力を発揮できたと感じた。・しかし、やはりオーディエンスからの質問に対して十分に答えられなかったのは悔しい。100%の技術的回答が出来なかったとしても自分なりの意見をもう少し落ち着いてまとめられなかったらどうかと反省。・同時により高い目標を意識するきっかけになったと思う。次の目標は当然ながら事前テキストなしでの Meeting、Discussion、Debate だろうか。それこそ臨機応援にアドリブ英語で意見を交わす場面をどれだけ経験していくかが今後重要となる。GPL 講義の中でも1分間スピーチの次のステップとして毎週毎トピックで Debate する、などを取り入れてもいいのではないかと感じた。

シナリオや発言内容について入念に準備して臨んだ成果発表でも、英語によるディスカッション/ネゴシエーションの難しさを痛感できました。講座終了から1週間後に早速海外メーカーとミーティングする機会がありましたが、成果発表のおかげで自信を持ってミーティングに臨むことができました。

英語でディスカッションする機会があまりないため、非常に良い経験が出来ました。

シナリオを作りこみすぎてしまった感があったので、自由にディスカッションできる場にすれば、より実践的な英会話のスキル向上につながると考える。

1min スピーチの成果は出せたと思います。台本に頼らずにその場でのネゴシエーションが理想ですが、台本作成の過程でも議論の進め方を学べたので、これはこれで良かったと思います。一番の収穫は、『聴衆の前で英語を話す機会』を得られたことでした。

自チームの準備、発表だけでなく他チームの発表からも学ぶことができよかった。舞台上で行うというのも非日常感があり、役割にのめりこめてよかった。ただ、海外のパートナーとの MTG など実践する場でどこまで有用に使えるかわからず、成功体験として自信を持ちきれないと感じる。

チームで成果発表のSCRIPTを作成していく作業は非常に有意義だったと感じます。SCRIPT作成にはもう少し時間が欲しかったと思う一方で、実際の会議では限られた時間の中で結論を出していかなければならないということを考えると、かなり現実に近い作業を体験できたのではないかと思います。

周りの皆様との個性を集約させて、ひとつのシナリオを作成していく作業は非常に有意義でした。また、題材のテーマに対する見解やミーティングで活用できる英語について学ぶことができました。

#### ■ 講師に対する意見 (自由記述) (23 responses)

実際に講座内容の分野で活躍されている方々から話を聞けたので講師の方々に関して意見等はありません。お忙しいところ貴重なお話をいただきありがとうございました。

講師の方々へ深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。普段の業務から離れたところにある知識を得ることができました。

専門的な内容を聞いて、非常に良かったです。

ご自身の実体験を沢山教えて頂き、どのお話も面白くためになるお話でした。また、アダム先生も熱心に指導して頂き、とても情熱を感じました。自社の人間にも受講を薦めたいと思います。ありがとうございました。

英語の苦手な私を気長に指導して頂き大変感謝しています。まだまだですが、英語で考え英語で答えられる様にしていきたい。

特にありません。

きめ細やかなご配慮とご指導のお陰で、航空業界を幅広い視点で見ることが出来ました。実体験を聞けることが、他にはない本講義の良さだと思います。

MHIの方が多く、KHIの方のお話を聞きたかった。

非常に親切かつ熱意のこもった授業だったと思います。

3ヶ月間、どうもありがとうございました。

実際の苦労話、体験談を聞くことができ、非常に貴重な体験になった。民間航空機を1から開発する苦労、面白さを知ることができた。民間機としての知識だけではなく、普段の業務への取り組み方についても、アドバイスをいただき、今一度自分の業務に対する姿勢を見直す良い機会になった。

業務での裏話を交えた貴重なお話が聞いてよかった。自分の業務ではない範囲を学べたのはもちろん、自分の業務に携わっている過去の問題も聞くことができた。あと、講師の中に外国人の方がいても良いと思った。

忙しい中、毎週時間を割いていただきありがとうございました。普段の業務からは学べない知識をたくさん吸収し、また違った面から航空機を見るようになりました。

実際に現場を見てきた方々のため、説明がわかりやすく、特に経験談は今後の自分に有益だと思う。

最前線の方に最新の内容を語っていただけ、これを聴講できたことに価値を感じました。しかしながら、授業の内容と講師自身の専門性が合っていなかった回もあったように思います。授業の内容に合った講師を呼ぶかその逆かをしていただけたら、より自然に授業を受けられたと思います。



林先生、アダム先生をはじめとして、各講師の方々のお話はすべて興味深く拝聴させていただきました。経験に基づく困難、苦勞されたお話はどれも説得力がありました。

講師の皆様方は直接的に航空機開発・プロジェクトに関わっておられる方々（プロジェクト/設計/生産部門）が多かったと思います。その様な方々が、材料技術者である私のような専門部門に何を期待されているのか、私が今後どのような業務に取り組むべきか、という問いに対する答えのヒントをいただきました。ありがとうございました。

生の意見を聞くことが出来たことが大きな収穫です。現状を知る良い機会になりました。

短い期間の中で、たくさんのお話を伝えようとする思いが伝わってきた。講座は終了しても、今後も指導いただけると幸いです。

貴重なお話をありがとうございました。

講師の先生方や、事務局の皆様には大変良くしていただいたと感じている。自由に議論ができる雰囲気があり、楽しく積極的に学ぶことができた。林先生とアダム先生は、文化的背景の違いもあってかキャラクターや指導のスタイルが大きく異なっていた。その二人がうまく協力して講座を進めているところから、互いを理解し協力して作業を進めていく一つの例を見ることができた。

講座で紹介された書籍やツールなどを、GPLのホームページなどで紹介していただけるとありがたいです。

非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

#### ■ 事務局に対する意見（自由記述）（19 responses）

特になし

特になし

貴重な講座を開講していただきまして誠にありがとうございました。航空宇宙産業の発展と将来の人材育成のために、本講座の継続・発展を祈念しております。

このような中堅社員のためになる講座に参加させて頂き、ありがとうございました。私の場合は未だ若手の部類に入りますが、これからの進路の視野が広がりました。

いろんな気配りありがとうございました。

特にありません。

是非今後も本講義が長く続くことを祈念致します。ありがとうございます！

受講生 40 名はやはり多すぎます。英語レベルが TOEIC650 点に届かなかったり、航空機業界の経験 3 年未満の方が多く、成果発表の際はまず色々と教えるところから入りました。（名古屋大学の大学院生の質は総じてかなり高かったので問題ない）個人的な経験から言わせていただくと、海外企業との実際の折衝は成果発表会程度の交渉レベルではまったく耐えられないと感じます。日本の航空業界を牽引する「グローバルプロジェクトリーダー」の名にふさわしい人材を育てるためにも、ある程度候補者を選定する必要があると考えます。一般公募は廃止し航空機関連企業からの推薦のみ。各企業の受け入れ枠は最大 2 名（MHI/KHI/FHI に限り 4 名）までに制限し、もっと幅広く Tier2/3 企業からの参加を募り、受講者は海外企業と直接交渉を行う方（派遣者含む）で、TOEIC650 点以上、航空業界経験 3 年以上、がミニマム条件。8 名(うち名大生は 1 名) × 4 チーム = 32 名が最適ではないでしょうか？

陰ながらのサポート、ありがとうございました。

4 か月間、お世話になりました。次年度以降もぜひ、続けて頂きますようお願いいたします。

午前の部がタイムオーバーすることが多々あったので時間管理の観点で見直して頂きたい。

（特になし）

あまり意識したことがなく恐縮です。短い間でしたがお世話になりました。ありがとうございました。

おかげさまで講座開始前から受講期間、修了式まで順調に受講させていただきました。誠にありがとうございました。この講座は他に例を見ない本当に有意義な講義だと思います。特にこれからの日本を担うべき航空機産業に携わる人材のための導入になる講座と言ってもいいでしょう。来年度以降も継続されることを切に願っております。ありがとうございました。

航空機開発・プロジェクトという自社でも中々体系的に学ぶことができない内容について広範囲に学ぶことができたとともに、自己啓発（モチベーションの向上）という面でも非常に良い機会をいただけたと思います。航空機メーカーの材料を専門に扱う私にとり、受講当初、このような内容は単なる予備知識程度に捉えており、それを自分の業務（材料の研究開発）に活かしたいという気持ちで参加しておりました。しかし、そうではなく今後は専門の枠を超え、自らが航空機開発・プロジェクトを動かしていくという意識を持たねばならないことを、本講座を通じて自覚しました。一つの専門性に固執せず関係部門・会社を巻き込み、プロジェクト全体を動かしていく人材になることが、本講座を受講した私の責務であると胸に抱きながら今後の業務を遂行していきたいと思えます。ありがとうございました。

今回のような機会を頂きありがとうございました。

非常に丁寧な対応を頂き感謝しております。

貴重な機会をありがとうございました。

非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

# 平成 28 年度 GPL 養成講座アンケートと結果 – 会社上司

## RESPONSES

17

17 responses

## SUMMARY

Accepting responses

### アンケート回答のお願い

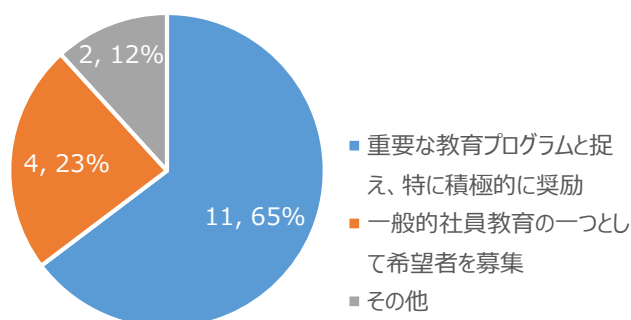
御社の今年度GPL講座受講生が、全15回／75時間の講座を受講後、会社業務に直接・間接的に成果を発揮していただけているか、あるいは受講生ご本人の会社業務への取り組み姿勢がグローバルリーダーへ踏みだすに相応しい積極的な取組みが伺えるかを会社上司の視点で、本講座の有効性を評価してください。忌憚のないご意見・回答をお願いします。

### ■ 社名 (17 responses)

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社	1
岡谷鋼機株式会社	1
株式会社 タマディック	1
株式会社 メイテック	0
株式会社 和田製作所	0
株式会社 中央エンジニアリング	1
株式会社 ベリサーブ	1
株式会社 中央図研	1
川崎重工業株式会社	3
川重岐阜エンジニアリング株式会社	1
シンフォニアテクノロジー株式会社	1
中菱エンジニアリング (株)	3
トヨタ紡織株式会社	0
富士ゼロックス株式会社	0
三菱重工業 (株)	3
三菱スペース・ソフトウェア (株)	0
名古屋大学大学院	0
その他	0

■ GPL 講座の位置付け(17 responses)

重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励	11
一般的社員教育の一つとして希望者を募集	4
その他	2



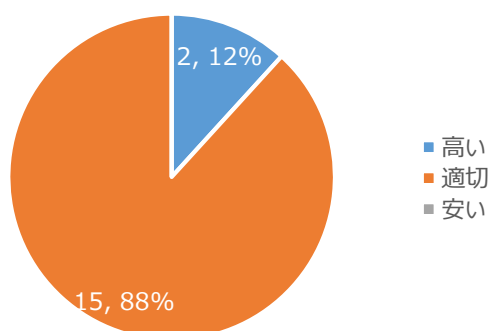
■ 上記で「その他」を選択した場合は理由を記入して下さい。(2 responses)

本人からの申し出により、本講座を知り、非常に有用であると判断しました。

強い意志を持った(土曜の自己研鑽)若手向けに奨励

■ 授業料について (17 responses)

高い	2
適切	15
安い	0



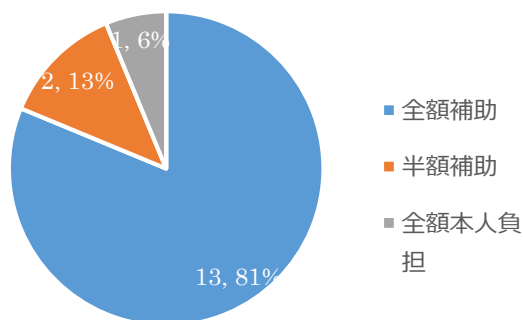
■ 上記で「高い」又は「安い」を選択した場合は妥当と思われる授業料を記入して下さい (1 response)

自己啓発だと本人負担が大きく少し高い

■ 授業料に関する御社の支援 (16 responses)



全額補助	13
半額補助	2
全額本人負担	1
本人負担 x %	0

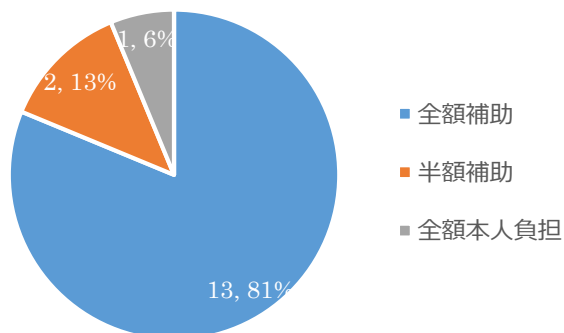


■ 上記で「本人負担が x %」を選択した場合はパーセントを記入して下さい (0 responses)

No responses yet for this question.

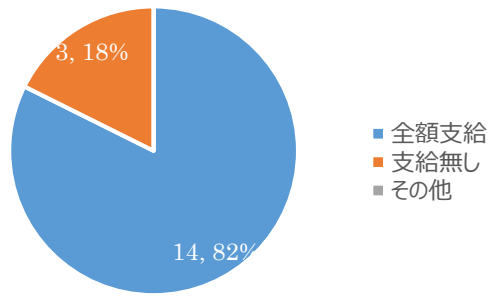
■ 就業時間扱い (17 responses)

就業時間扱い／休日授業は休日残業扱い	5
就業時間扱い／振替にて残業扱いなし	1
就業時間扱いしない	10
その他	1



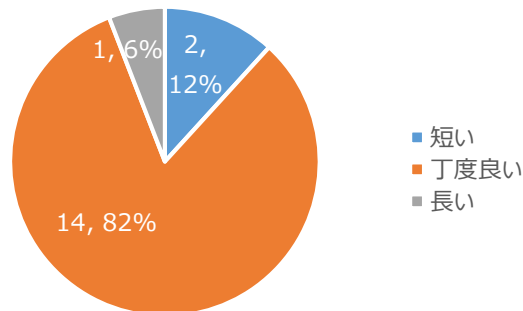
■ 交通費 (17 responses)

全額支給	14
支給無し	3
その他	0



■ 開講期間について\_期間 75 時間・全 15 回(17 responses)

短い	2
丁度良い	14
長い	1



■ 意見記述 \_ GPL 講座の御社での位置付けに関しコメントがあれば記述願います。(5 responses)

今後の海外事業におけるキーマン育成の一環として受講

今後も若手社員の教育の場として機会を与えたいと思っています。

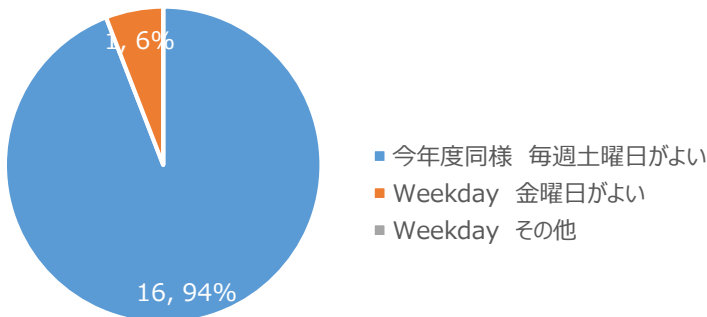
実際の業務では、基礎的な部分に立ち返っての検討・考察がなかなか出来ず、応用実務の締切に追われがちです。我々が期待するのは、貴講座が掲げられている目標に沿って受講生を訓練してもらい、英会話を含む彼らの基礎的な能力が向上する事です。それにより、受講生も業務を通して復習を行う事ができるようになり、レベルアップが図られると考えております。

実際の業務では、実務に追われ、自分が担当する範囲も狭く、航空機全体の知識を身につけることがなかなかできません。また英語を話す機会もあまりありません。本講座を業務と分けて受講することにより、航空機の全般的な知識を得るだけでなく、英語能力の向上にもつながると考えています。

会社としては奨励しているが、当室の業務との直接的な関連は薄い。航空宇宙業界のエンジニアとしての知見を拡げさせることを期待して受講してもらった。実施内容からして、期間や費用は概ね妥当と考える。

■ 講座開催日について (17 responses)

今年度同様 毎週土曜日がよい	16
Weekday 金曜日がよい	1
Weekday その他	0



■ 上記で「Weekday その他」を選択された場合はご希望の曜日を記入して下さい。(0 responses)

No responses yet for this question.

■ 意見記述\_GPL 講座開催日に関しコメントがあれば記述願います。(9 responses)

Weekdayだと業務都合で欠席が多発すると思料。一方今回妻帯者だったので子供の急病での欠席が発生した。毎週土曜日の開催でも会社としては問題ありません。

通常業務との兼ね合いもあり、平日実施では参加が難しくなりますので、現状通り土曜日開催が良いと思います。休日を使う事は受講生の負担ともなりますが、逆にヤル気や修了時の達成感を醸成してくれるようです。

特になし。

今まで通り土曜日開催が良いと思います。平日開催ですと業務の一環となり、やや強制的になります。また休日を使っても参加したい！という前向きな社員を受講させたい所存です。

当社では客先内に入って就労するメンバーが多いため、客先に迷惑が掛からぬよう、土曜日の開催を要望いたします。

特にございません

個人の負担も大きいかとは思いますが、自分のスキルアップへの意識を高く持ってもらう上でも、土曜開催の方がよい。

毎週土曜日でなくても良いと思います。

GPL 講座のカリキュラム内容を以下に示しますが、御社社員の育成方針に対し、過不足はありますか？ 今後の改善点の参考としてご意見をお聴かせ下さい。(14 responses)

今回の GPL 講座参加者を見ていて装備品メーカーからの参加者が少なかったように思います。装備品メーカーからの参加者を積極的に募り、カリキュラムにも装備品事業強化に向けての課題や目標を講義頂き、装備品事業に対する取組み意識の改善を重工メーカー・システムメーカー他にも認識頂いてはどうでしょうか。

少し英語に偏り過ぎではないかと思う。英語は英会話教室で学ぶ基礎的な部分は除き、真にリーダーとして求められる場面での英語スキルや活用方法にとどめ、国際開発のリーダーとして求められるスキルや知識をよりたくさん学ばせるべきだと思う。英語能力が上がっても、リーダーとして求められるスキルや知識が無くては、ただの英語が出来る技術者となってしまう、それはこの講義に派遣する意味がなくなってしまう。

機体側の他にエンジン開発の話も少し取り入れて頂くと幅が広がると思います。

広範囲に充実した内容でご指導いただいたと認識しています。

航空機運用に関する授業(整備、通常運用など)

このたび受講させていただいた弊社のメンバーは全員 MRJ プロジェクトに参画させていただいておりますが、主に就業させていただいております業務は“V&V 業務”と“安全性解析業務”のこの二種になります。 GPL 講座の中にエッセンスとして含まれているものかもしれませんが、航空機開発を考える上でなくてはならない要素と考えておりますので、今後の講座内容として組み入れていただけることを恐れながら期待しております。

カリキュラム内容については（受講生の理解度に応じて実行上の濃淡が必要な場合があるかもしれませんが）特に過不足は無い理解です。 題材については、実機に近い内容も取り込んでもらっていると聞いております。 受講生に取って興味を持ちやすく、前向きに取り組み易い題材を準備いただき、ご配慮に感謝いたしております。

特になし。

カリキュラム内容については特に過不足は無いと考えます。 講座は多方面に渡っており航空機開発を学ぶにはとてもいい機会だと思います。

本講座の目標に共感し、受講させていただいております。

プロジェクトリーダーに必要な能力は交渉／折衝能力だけなのでしょうか。スケジュール、人員・予算管理、統率・牽引、技術力、判断・決断力等はカリキュラムの中に入っていますか。 私個人の見解ではリーダーシップと決断力が最も重要と思っておりますが。

ユーザ（エアライン）目線の講義があるとさらに充実する可能性がある。

特にございません

上記目標及び下記カリキュラムで特に問題ありません。 構造だけでなく、システム(装備/電装)の講義があっても良いと思います。

## 目標の達成度・受講評価

### ■ 受講生が核となることで、御社に新規雇用が創出されましたか？ 新規雇用創出者数（15 responses）

	Count
0	8
-	1
今のところありません。	1
今のところ 0	1
会社として出すべきもので一部門の担当として回答不可	1
初参加なので今後の評価の対象	1
特にございません	1
0（これまでのところございません）	1

### ■ 受講生が核となることで、御社の新規取引件数が増えましたか？ 新規取引件数（15 responses）

	Count
0	8
-	1
今のところありません。	1
今のところ 0	1
会社として出すべきもので一部門の担当として回答不可	1
初参加なので今後の評価の対象	1
現在拡販中です	1

	Count
0（新規取引件数としてはございません）	1

■ 受講生が核となることで、御社の売上高が増加しましたか？ 売上増加額（15 responses）

	Count
算出不能	1
0	5
今のところありません。	1
これから寄与すると考えます	1
0（今後の期待できるものと考えております）	1
初参加なので今後の評価の対象	1
今のところ0	1
unknown です	1
現在拡販中です	1
-	1
会社として出すべきもので一部門の担当として回答不可	1

■ 意見記述\_御社で得られた GPL 講座の効果等ございましたらご記入願います。（14 responses）

今のところ具体的な数字としては表れていないが受講生が GPL 講座で学んだことを日々の業務で活かし、それを社内でアピールすることで広い視野で自分の業務を捉えられるように意識が変わってきている。また GPL 講座で知り合った仲間との関係を活かして新しい取引につなげるような取組みが始まっている。

学びを継続することの大切さと、社外の人間との繋がり有効性について認識を強くしてくれたのは、今後に期待が持てる。受講参加している会社名と受講生の数から、他社の海外事業への姿勢が垣間見れる。社内的には P R する事で海外事業に向けての人材育成の難しさ、投資の必要性に理解が得られる。

Visual Management の取り組みにおいて、EVM を導入予定です。

航空業界の他社様とのお付き合いのきっかけ作りとして大変大きく有意義な場と考えさせていただいております。

この講座の受講が即座に新規雇用や取引件数増に繋がるとは考えておりません。将来の受注もしくは受注後の適切なプロジェクトの推進に貢献できる人材への成長を促してもらえるものだと考えております。今回の受講により受講生の自発的な提案や行動が増えたと感じており、その意味で弊社の目的に対する寄与はあったと考えております。

海外の取引先との英語による調整が以前に比べて円滑にできるようになったと思われる。

この講座の受講は、将来海外メーカーとの開発業務時に向けた人材育成だと考えております。今回の受講により受講生は、意識が変わり、自信をつけたと感じていますので、その意味で十分な成果はあったと考えております。

当社受講生は現状、客先内への派遣業務に従事しており、上記の直接的な業績には反映できておりません。

他社社員の方と自分を比較することができて、自信と改善意識が芽生えたと思います。受講者が真のプロジェクトリーダーになれるよう暗示も含めその気にさせてもらって業務に成果が出るようアプローチしてもらえれば幸いです。

海外業務にスムーズに異動させることが可能

講座を受講することで視野も広がり、また人脈も広げることができたようです。

専門外分野においても知識や経験談にふれることができた。将来的に異なる分野/文化の相手と調整していく際に本講座の効果がでてくると期待する。

現状、まだ効果はありません。

#### ■ 成果発表を聴取されたご感想(自由記述) (15 responses)

英語の語学力が年々グレードアップされていると感じる。単に理解する・しゃべるレベルから相手にいかに伝えるか交渉相手との合意点・達成目標に向けたレベルの高い交渉が実現できるのではないかと感じた。女性がチェアマンとして会議を仕切っていたのが印象的で当社でも女性の能力を活かすような取組みを考えねばと感じた。

国際開発リーダーとして何を身につけさせるのか、その目的に合致する発表にすべきであり、英語スキルに偏った発表、魅せることを目的とした発表になってしまっている感が否めません。結果、英語スキル以外では何が得られたのかよく分からない印象でした。英語による討論は、良いと思いますが、出来れば台本のない本物のネゴシエーションをやらせ、かつリーダーとして必要なことを学んだ内容が見て取れる発表になることを期待します。

各人のレベルに合わせて非常に良く指導訓練されていた。飾ることなく堂々と発表する自己表現力も身に付き、プレゼンで好感を持ってもらえる力を身に着けつつある。

欠席しました。

英語での実践的なロールプレイで大変興味深く拝見しました。テーマも実践的で大変良かったと思います。

年々レベルアップしていると伺っており、この度初めて成果発表を拝見させていただきましたが、想像以上のレベルの高さを実感いたしました。

昨年より活発なディスカッションが出来ていたと感じました。質疑応答でも、飛び込みの質問も多く、それらに一生懸命答えており、今後の業務にもしっかりと活かしてもらえらるものと期待しております。

所用により発表を聞くことができませんでした。申し訳ありません。

小川はリーダーに任命されており心配しておりましたが、成果発表会では堂々と流暢な英語で話しており(私よりも)、私の心配は杞憂でした。また他の方もしっかりと自分の意見を言っており、レベルが高いと感じました(もしくは本講座の受講により成長したと思われます)。私自身、海外で設計開発業に携わったことがあり、海外の方とネゴをする機会がありましたが、今回の成果発表は実際に非常に近いと感じましたので、将来そのような機会のときはしっかりと活かすことができると思います。

発表では専門知識などの習得を伺うことは多くはありませんでしたが、エネルギーな発言姿勢はご指導の賜物でした。

参加している皆様が楽しんでいる様子が伺えました。一人一人にとって有意義な講座だったものと思われました。

講座を受講することで視野が広がったようです

全般によく準備されており、しっかりとした受け答えができているように思う。講師の方々のご指導に御礼申し上げます。発表の仕方でも1点、各発表における前提条件を別画面で表示しておいて欲しい。シナリオを考えて発表しているのは評価できるが、想定している場面に対し、根拠が薄いため、議論が表面的になっているように思った。そのため、質問も技術的な内容が多くなっていったように思う。前提条件の作りこみをすることで、もう少しシナリオに厚みがでてくるのではないのでしょうか？

皆さん生き生き発表されていた。平野も役になりきっていた、また英語が流ちょうでびっくりした。

全員、英会話のスキル・レベルが高いと思いました。ビジネス・シミュレーション・ゲーム方式(取引等の実践型)の発表は、実践さながらのドラマを見ている様であり、非常に面白く、このような実践的なやり方は、今後の業務に非常に役立つと思いました。営業力やコミュニケーション能力等のスキルアップのため、当社でも本形式の教育を検討したいと考えます。(先ずは日本語で)

#### ■ 次年度講座に対するご要望(自由記述) (14 responses)



他の装備品メーカーに対する声掛けをもっと行って頂くとともに装備品事業拡大に向けた講義を実施して頂きたい。認証のしくみを体系的に講義頂きたい。MRJでの認証対応の遅れからどういった事態に陥ったかの事例や今後日本での認証取得に向けた国としての対応など課題も提示頂きたい。

1 項最後の質問回答に記載

引き続き改善のPDCAを回しながら講座継続して頂きたい。

来年も若手社員を参加させたいと思っています。募集が決まりましたら、お知らせいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

上記改善点に記載させていただきましたこと以外はありません。

本年度と同等の内容で結構だと考えます。最終発表では、ディベートのシミュレーションも良いのですが、いくつかのテーマの中から選んだモノについての自分の考えを、プレゼン(質疑応答付き)するような内容も面白いかと思いました。

次年度も開催して欲しいです。

本年度と同様の内容で結構だと考えますが、もし可能でしたらエアラインの話(納入後の運用の話)をきく講義があれば幸いです。

社内の状況と調整がつけば、是非とも受講させたい。

技術コンタミの回避や知的財産権対応の具体例の討論追加

特にございません

発表で使用されていた図表で、議論とかみ合っていないもののがいくつか見受けられました。元ネタに限られるのは判りますが、可能な範囲で見直されてはいかがでしょうか？

一グループにつき、一人は留学生を入れると刺激になるのでは(英語、文化、積極性等)。

現状の内容で特に問題ありません。構造だけでなく、システム(装備/電装)の講義があっても良いと思います。

#### ■ 事務局に対するご意見 (自由記述) (14 responses)

成果発表会の際に参加者リストを公開頂くとともに各社の事業内容等分かればさらに興味深く参加出来た。

成果発表会の発表者が、発表に集中できる様に、マイクのテストなど事前の準備をしっかりとあげてほしいと思います。

林特別准教授とスタッフの方のチームとしての献身的なご対応が印象に残りました。

芝田が大変お世話になりました。毎回質問させていただいていたようです。ご対応いただき、誠にありがとうございました。

毎年お忙しい中運営等対応ありがとうございます。引き続きお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

これからを期待されている航空宇宙産業界を支える若い人材の良き育成の場となっていると思います。いろいろとご苦労もあられると思いますが、今後とも宜しくお願い致します。

受講生がお世話になりました。ありがとうございます。

将来の航空宇宙産業界を支え、東海地区を盛り上げていく人材育成の場だと感じます。今後ともよろしくお願いいたします。

丁寧な対応とご配慮に感謝いたします。ありがとうございました。

サポート機能の発揮に感謝申し上げます。

特にございません

土曜日開講ということで、事務局も大変かと思います。本当にご苦労さまです。引き続き、本講座を踏み台に人材が育っていくことを期待しています。

各種カリキュラムにおいて、講師の調整等、大変だったかと思います。ありがとうございました。

非常にご丁寧な対応をして頂き、誠にありがとうございました。今後共、宜しくお願い致します。

#### ■ 来年の GPL 講座受講予定者数 (16 responses)

2

2

未定

未定

1

1～2名 是非参加させたい。

1名

2～3名を考えさせていただいております。

2～4

1～2

2～3

0～1

0(単独の課から連続派遣困難)

未定です

0

会社として決めることで一部門の担当として回答不可

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。